

子どもの本だな 116

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

おやすみ みみずく

パット=ハッチンス さく
わたなべ しげお やく (偕成社)

大きな木の洞でみみずくが目を閉じてやすんでいると、はちがやってきてぶんぶん羽を鳴らします。みみずくはちらりと見やって「あーねむたい」。すると今度ははりすが来て木の実をかりかりかじります。みみずくはちらりと見やって「あーねむたい」。そのうち、つぎつぎに鳥たちがやってきます。からは「かーかー」鳴く。きつつきは「たららたららら」木をつつく。むくどりは「きゆるきゆるきゆる」とおしゃべり…。そのたびにみみずくは「あーねむたい」。やがて夜になり、あたりが静かになると、みみずくが羽を広げて「ぶっきょっこー」。今度は森の鳥たちが「あーねむたい！」。

明るくやわらかな葉を茂らせた1本の木に、鳥たちの個性的で鮮やかな姿が加わっていきます。みみずくと鳥たちのやりとりが、軽やかでリズムカルに繰り返され、にぎやかな森の様子に想像がふくらみます。読んでもらえば2歳から楽しめます。(秋澤)

りこうなおきさき ルーマニアのたのしいお話

モーゼス・ガスター 文 光吉 夏弥 訳
太田 大八 絵 (岩波書店)

ある日、王様が大臣に「羊2千匹を市場で売り、売れたお金と一緒に羊を連れて帰るように」と命じました。どうすればいいのかわからず困っていると、娘が羊の毛だけを売って、連れて帰ればよいと教えてくれました。その通りにした大臣に、王様は誰の智恵かと問いただし、りこうな娘に感心しました。そして王様は、自分の裁きに口を出さないという約束で娘をお妃に迎えました。ところがある時、お妃は王様の裁きに泣いている男を助けたため、城を出ていくよう命じられました。出ていく前にお妃は、御殿の中で1番大事な、1番いとおしいものをもらいたいと願い、王様はそれを許したのですが…。(「りこうなおきさき」)

ルーマニアの昔話を集めたもの。カメになったおばあさんの話や神様から美しい声をもらったウグイスの話など、独特のユーモアがたっぷり、ゆかいな物語集。読んでもらえば5歳くらいから楽しめます。(西村)

7月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	✕	5	6	7	8
9	10	✕	12	13	14	15
16	17	✕	✕	20	21	22
23	24	✕	26	27	28	29
30	✕					

8月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
		✕	2	3	4	5
6	7	✕	9	10	11	12
13	✕	✕	16	17	18	19
20	21	✕	23	24	25	26
27	28	✕	30	✕		

< お知らせ >

ダンボール工作教室

- 日時: **7月30日(日)**
- ☑ やさしめクラス(ペテラドン)
10:30~12:00
- ☑ チャレンジクラス(ディメトロン)
14:00~16:00
- 場所: 図書館 読書会室
- 対象: 小学生以上(保護者同伴)
- 定員: 各回7名まで
- 参加費: 無料
- 持ち物: 軍手、はさみ、カッター
(カッターは☑クラスのみ)
- 申込み: 太子町立図書館

▶ ✕印は休館日 ※閉館時は返却ポストをご利用ください。
(7/19、8/14は祝日の振替、7/31、8/31は館内整理日)

▶ 開館時間は10:00~18:00、金曜日は20:00まで開館

『種をあやす 在来種野菜と暮らした40年のことば』 岩崎 政利 著

亜紀書房 173頁 2023年5月刊 1,700円 (請求記号)626.1

地域固有の在来種野菜に目を向け、守り継ぐ著者の農への思いが伝わられる。多くの農家が、F1種(交配種)を使い、病害虫に強く、見た目も揃い、収穫量も安定した野菜作りをするなかで、種をまき、野菜を育て、花を咲かせて種を採る自然農法を選んだのはなぜか、それによつて得るものはなにか？

高校卒業後、就農した著者は、当時の最新技術であったビニールハウス栽培に着手した。300棟のハウス経営は順調だったが、10年後、体調不良に見舞われる。寝たきりの生活が続くなか、使用してきた大量の農薬が原因ではないかと考え、農法の転換を図る。著者を助けたのは雑木林だった。木々が共生し、地面には耕さずとも落ち葉と微生物によつてつくられたふかふかの土。そこにまた種が落ち、林を再形成する。雑木林のリズムを畑にも取り込もう、そして、つくるのは安全でおいしい野菜、それは年寄りが自分のために細々とつくってきた在来種しかないと考え。著者は、手探りで在来種を育て、学ぶ。野菜が育つと、種を採るための母本を選抜する。形のいいものばかりを母本として選ぶと、数年後には収穫できる種が少なくなるため、母本には多様性をもたせる必要がある。春になると、白や黄色、上品な、個性的な、さまざまな野菜が花を咲かせる。さやが実ると子をあやすように、さやを擦りあわせ種を振るう。できた種は畑にまき、また採種することで種に土地の環境を体験させる。

細々と継がれてきた種の物語や、人と野菜の関係、花の美しさ、それらを感じ心をふるわせることこそ野菜からのいちばん大きな恩恵という。安定した野菜の供給には先端技術も必要だろうが、自然とともにある昔ながらの農法が引き継がれることを願う。

(竹内)

7・8月の移動図書館(いずれも木曜日です)

7月	8月					
6日	10日			福地(三反長) 地域内 14:30~ 14:50	米田 公会堂 15:00~ 15:20	竹広南 公民館 15:30~ 15:50
13日	17日			原池団地 公民館 15:00~ 15:20	山田 掲示板前 15:30~ 15:50	原 太田東地区 農村交流 センター 16:00~16:20
20日	24日	広坂 公民館 10:30~ 10:50	上太田 公民館 11:00~ 11:20	塚森 地域内 15:00~ 15:20	太子 ニュータウン 公民館 15:30~ 15:50	吉福 公民館 16:00~ 16:20

< お知らせ >

●なつや de 文化村 8月11日(金・祝)

- ◆絵本の時間 ①11:00~②14:30~
・対象:2~3歳の子どものとその保護者
- ◆紙バッグ工作教室 ①15:00~②15:30~
・対象:5歳以上の子どものとその保護者
各回3名まで。要申込。

●13歳からの読書会

~『小さい牛追い』を読んで~
(マリー・ハムズン 作 石井桃子 訳 岩波書店)

- ・日時:8月13日(日)14:00~15:30
- ・場所:図書館 読書会室
- ・対象:中学生以上(要申込)
- ・準備:当日までに本を読んできてください。

地下水

感染症による規制が徐々に緩和され、多くの行楽地で賑わいが戻りつつある。出歩く人々に目を向けてみると、マスクを外して過ごす姿も珍しくなくなってきた。図書館もマスクを外して利用できるようになり、先のないトンネルに光が差し込んだような安堵感がある。

規制緩和に伴い、図書館では学校訪問も本格的に再開しつつある。各学校に赴き、絵本の読みかせやブックトークを実施するわけだが、今回初めてブックトークを行うことになった。ブックトークとは、子どもがその本を読みたい気もちになるよう、テーマに沿って複数の図書を紹介する活動である。単に図書の内容を説明すれば良いというわけではなく、子どもの好奇心が呼び起こされるよう、内容を取捨選択して原稿を練らなければならず非常に苦労した。ようやくできた原稿も、これで子どもに関心を持ってもらえるのかと、不安ばかりが湧き上がっていたが、いざ子どもの前に立って紹介し始めると、想像以上によく聞いてくれた。後日、ブックトークを聞いた男の子が、紹介した本を借りに来てくれたことで、ようやくやり切ったと実感することができた。

(光藤)